

全てのクラブで決議

筑波法案の全国代を許すな

□ 工学部3・I6国争勝利のために。

- (1) 工学部の複職を許すな。
- (2) 工学部民主的改革国争支援。
- (3) 学長・協議会は国交に応じよ。
- (4) 各学部長は上記3項目を支持せよ。
[各学部で学部長国交を実現しよう。]
- (5) 工学部自治会建設断固支持。

□ 田中会館国争勝利のために。

- (1) 田中会館を市立の付属施設とせよ。 付属施設化
- (2) 会館運営への学生参加(文サ連、音サ協etc)を認めよ。 学生の運営参加
- (3) 会館の学生ホール並み自由使用を認めよ。 学生ホール並み自由使用
- (4) 喫茶、食堂部の設置は、生協との合意の下に行なえ。 生協
- (5) 予算里設委員長は以上のことを確認せよ。
- (6) 以上の確認まで会館の建設を中止せよ。

□ 学生入断、国争弾を目論む

さみだれ試験粉碎。

民学同市大3ツバハ

スローガン決議を克取るために。

① 筑波法案 参院通過阻止。

筑波の全国化を許すな。

政府独占は国会期限切れを前に焦りを一層深めている。金大中事件による国会審議遅れの中で、長沼自衛隊違憲判決は野党の防衛二法撤回要求をはじめ、国内外で大きな波紋を起している。このような国会情勢の下で、予想される強行通過を許さぬ闘いが現在着々と進められている。総評は17~27日にストライキを含む反動諸法案粉碎の闘いを準備している。とりわけ日教組は奥野文相発言に見られる日教組攻撃に対し、4.17スト処分粉碎、教育三法粉碎をかかげ、20職場集合で闘わんとしている。

我々は昇る労働者階級の闘いに連帯し、筑波法案粉碎を最後まで闘わねばならない。その勝利の展望は開いている。同時に我々は筑波法案の実質化が既に始まっていることに注意せねばならない。【本文の「教育部」「研究部」の分離】【本文の教養部廃止—総合科学部設置】【本文教養の言語文化部設置】はまさにその先駆けである。我々はこのような筑波の全国化を許さぬ闘いを全国各大学において早期につくり上げねばならない。

今秋期市文闘争は、きりとこの視点をもって闘わねばならない。すなわち、市文における筑波導入を許さず、即ち進行している【中教審実質化と対決する工学部】3.16闘争を【工学部民主的改進黨闘争】として闘いぬくこと更に学内資本導入の田中会館建設に対し、その法人化に反対し、市文附属施設として克ち取ることである。

② 3.16闘争は工学部の復職闘争。大ア工の復職を許すな。工学部民主的改進黨闘争に前進せよ。

3.16闘争は【大ア工の復職闘争】提出により新しい局面を向えている。大ア工追放の例は、彼にこれ以上の休職逃亡を許さない。大ア工の行状は一人の人間を死に追いやっている。それだけでも我々は彼を工学部から追放せねばならない。彼の復職を許してはならない。同時に、彼の存在を許し、擁護さえしてきた工学部教授会の体制を打破する闘いにこそ、筑波闘争の中で闘われ、3.16闘争が引き起こした【工学部の教育研究内容そのものをめぐる闘い】であった。工学部会は一切の確約を放棄するかの石炭化の進む中で、我々には、対立点そのものをめぐる三権—工

学部教育研究の民主的改進黨—に着手する時がきている。工学部闘争以後の持続的斗争としての3.16斗争は、全国に例のない【具体的改進黨闘争】への一歩前進の段階にはい、てい。我々が、【有利な関係の下で整然とこの改革を推進する事】、教養生への科学技術論の提供、反公害の研究グループの設置、大ア工追放の実質化を待ちとるものである。工学部、反公害、反公害の研究教育の皆に前進させていくものこそ、この斗争の中でまたえ上げられるのである。

さらに、学部自治の名の下に、大ア工、工学部会の居直りを許してきた学長、校議会にその責任自負の団子を克ち取らねばならない。工学部会の新たは前進を全学口で守りぬかねばならない。【各大学の学部長任用を実現し】、3.16斗争勝利に向けた【学内支持を克ち取ろう】。二にこそ、校議会内部の分裂を一つはね、【工学部を孤立代に一層の追進を】たけ、【3.16闘争勝利への大きな道を打開する武器となる】だろう。今日、3.16闘争を知らずして、市文附属施設代阻止をねばねばすることでは足りない。学生世帯諸君の「学内反動代阻止」は、中心据えぬ闘い闘わねばならぬ。比々には大ア工の成長である。今頃になって初めて、学内反動代は勢いづいてきたと【注意的決定】、更には最重要闘争である市文3.16闘争を一切サボタージュするという点で、いまだ【犯罪的役割】を果していると言えるだろう。

③ 田中会、食言違言を阻止。

田中会館【第一に】、校務会による直轄資本の会館建設への介入、【第二に】、会館使用増徴を許可制強行の中でのサークル登録制等学生管理の強化、【第三に】、会館内売店入の業者導入等の重要な問題を含んでいる。我々はこれに対し、資本の大学介入阻止、学生生活施設、管理運営新体制の観点で闘いを組織しねばならない。一方で、トコ諸派を中心とする【新陣をえ含む学館建設】を打破する【グループ】がある。これらの諸君の田中会館建設阻止闘争の中で、【あきらなくは勝る】、という考え方は【李承相の言葉】、政府の反ア工の陣に依る闘いとして、彼自に市文行動なりの闘いを進める中で、【指導されるという運動の原点を無視して便乗主義的】ものである。【学生生活を守り】、政府の反ア工の陣を打破する闘いは、今秋期、学費、新陣、奨学金の引き上げを請うている。とりわけ、奨学金の増額、市文会館の拡大の両面は、都府県府会を中心とした労働人民共闘の【我々の勝利はななる時】、闘いとして闘われねばならない。【市文の連帯中にある】。